

Grandstage 88/73

MIDIガイド

KORG

J1

目次

MIDI設定-----	2
MIDIについて -----	2
MIDI機器/コンピューターと接続する -----	2
本機から外部MIDI音源をコントロールする場合-----	3
外部MIDI機器から本機の音源をコントロールする場合 -----	3
外部MIDIシーケンサーやコンピューターなどと接続する場合 -----	4
コンピューターとUSB接続する場合 -----	5
接続後のMIDI機器に関する各設定-----	6
本機が送受信するMIDIメッセージ-----	9
本機のコントロール・チェンジの使い方 -----	12
よく利用されるコントロール・チェンジ -----	12
システム・リアルタイム・メッセージ -----	14
システム・エクスクルーシブ・メッセージ -----	15
コントロール・チェンジ送受信時の本機の動作 -----	17
付録-----	19
故障とお思いになる前に-----	19
MIDIインプリメンテーション・チャート-----	20

MIDI設定

MIDIについて

MIDIとはMusical Instrument Digital Interfaceの略で、電子楽器やコンピューターの間で、演奏に関するさまざまな情報をやり取りするための世界共通の規格です。

MIDI機器同士をMIDIケーブルなどで接続することで、異なるメーカーの電子楽器やコンピューターとの間で演奏情報のやり取りをすることができます。

本機は、コンピューターとUSBケーブルで接続したりすることができます。5 ページの「コンピューターとUSB接続する場合」を参照してください。

MIDI機器/コンピューターと接続する

本機のMIDI端子に外部機器のMIDI端子を接続して、MIDI情報をやりとります。

Note: 送信側と受信側のMIDIチャンネルを合わせる必要があります。

MIDI IN端子

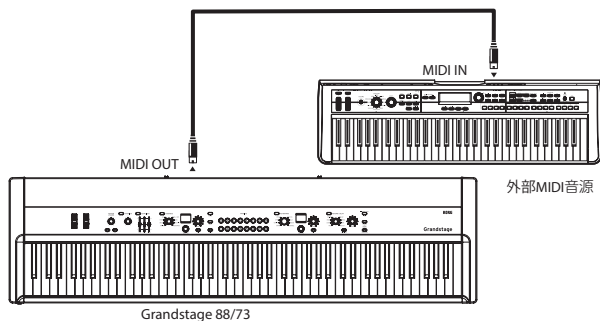
外部機器のMIDI OUT端子と、この端子を接続して、本機がMIDIメッセージを受信します。

MIDI OUT端子

外部機器のMIDI IN端子と、この端子を接続して、本機からMIDIメッセージを送信します。

本機から外部MIDI音源をコントロールする場合

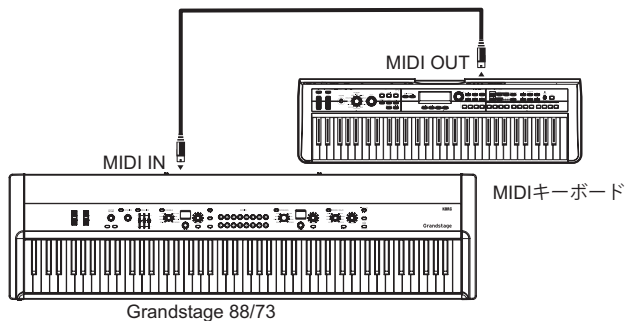
本機の鍵盤やコントローラーで、外部MIDI音源を鳴らすなどのコントロールをするときは、本機のMIDI OUT端子と外部MIDI音源のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。



Tip: スプリット機能を使用すると、高音アップー側と低音ロー側でそれぞれ別々のMIDIチャンネルのメッセージを送信して、外部MIDI音源をコントロールすることが可能です。設定方法については、6ページの「MIDIチャンネルの設定 (MIDI Channel)」、6ページの「MIDIチャンネル・モードの設定 (MIDI Ch Mode)」、7ページの「ロー MIDIチャンネルの設定 (MIDI Ch (Lower))」を参照してください。

外部MIDI機器から本機の音源をコントロールする場合

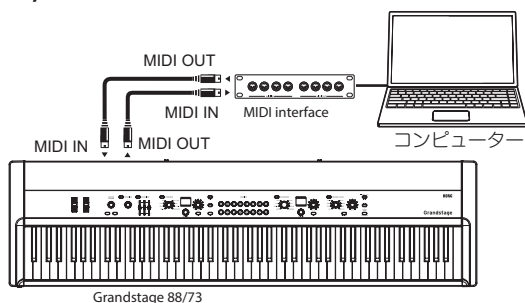
他のMIDIキーボードやシーケンサーなどで、本機の音源を鳴らしたりコントロールしたりするときは、外部MIDI機器のMIDI OUT端子と本機のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。



外部MIDIシーケンサーやコンピューターなどと接続する場合

本機での鍵盤演奏を外部MIDIシーケンサー / コンピューター（MIDIインターフェイスで接続）にレコーディングしてから、レコーディング時のモニターやプレイバック時に本機を発音させる場合や、本機を入力用キーボード兼MIDI音源として使用するとき、本機と外部MIDIシーケンサー / コンピューターのMIDI OUT端子とMIDI IN端子を相互に接続します。

Tip: コンピューターとの接続にはUSB端子を使用するのが便利です。



Tip: キーボード・セクションとアンサンブル・セクション、それぞれ別々のMIDIチャンネルを設定することができます。外部MIDIシーケンサーやコンピューターなどと接続して、本体を2つの独立した音源としてコントロールすることが可能です。設定方法については、6ページの「MIDIチャンネルの設定(MIDI Channel)」、6ページの「MIDIチャンネル・モードの設定(MIDI Ch Mode)」、7ページの「ローワーMIDIチャンネルの設定(MIDI Ch (Lower))」を参照してください。

コンピューターとUSB接続する場合

USB接続するときは、コンピューターにKORG USB-MIDIドライバをインストールする必要があります。コルグ・ホームページよりKORG USB-MIDIドライバをダウンロードし、付属のドキュメントに従ってインストールしてください。

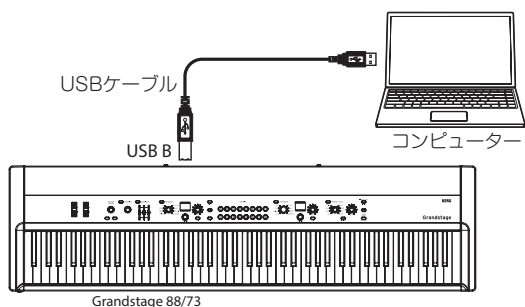
Note: 本機はUSB 2.0に対応しています。

USB A端子

USBフラッシュ・メモリーなどのUSBストレージ・デバイスを接続できます。

USB B端子

Windows PC、MacのUSB A端子と、この端子をUSBケーブルで接続して、MIDIメッセージを送受信します。



接続後のMIDI機器に関する各設定

MIDIチャンネルの設定(MIDI Channel)

外部MIDI機器を接続してデータをやり取りするときは、本機のMIDIチャンネルと外部MIDI機器のMIDIチャンネルを合わせる必要があります。

以下の手順に従ってMIDIチャンネルを設定してください。

本機のMIDIチャンネルを設定する

1 SYSTEMボタンを押します。

SYSTEMボタンが点滅して、キーボード・セクションのディスプレイの上段に“SYSTEM”が表示されます。

2 VARIATIONノブでディスプレイ中段のパラメーターに“MIDI Channel”を選択します。

3 キーボード・セクションのLEVELノブでチャンネルを設定します。

4 設定が終わったらSYSTEMボタン、またはEXITボタンを押します。

SYSTEMボタンが消灯します。

MIDIチャンネル・モードの設定(MIDI Ch Mode)

本機のMIDIの送受信で使用するMIDIチャンネルのモードを選択します。

Global Only: “MIDI Channel” で設定するチャンネルのみを使用します。レイヤーまたはスプリット設定の時、送受信は1つのチャンネルのみです。

U/L Individual (Upper/Lower Individual): キーボード・セクション、アンサンブル・セクションのMIDI送受信に、“MIDI Channel”、“MIDI Ch (Lower)”で設定する、それぞれのチャンネルを使用します(初期設定ではそれぞれ1、2チャンネル)。

スプリット設定で別々のMIDIチャンネルで外部MIDI機器をコントロールする場合や、外部MIDI機器から2つのレイヤー音色を別々のMIDIチャンネルで演奏する場合に選択します。

通常は“Global Only”に設定します。初期設定は“Global Only”です。

1 SYSTEMボタンを押します。

SYSTEMボタンが点滅して、キーボード・セクションのディスプレイの上段に“SYSTEM”が表示されます。

2 VARIATIONノブでディスプレイ中段のパラメーターに“MIDI Ch Mode”を選択します。

3 キーボード・セクションのLEVELノブで“Global Only”または“U/L Individual”を設定します。

4 設定が終わったらSYSTEMボタン、またはEXITボタンを押します。

SYSTEMボタンが消灯します。

ロワー MIDIチャンネルの設定(MIDI Ch (Lower))

MIDI Ch Modeの設定が、“U/L Individual” のときに有効です。本機が送受信するロワー(通常、低音ロワー側)アンサンブル・セクションのMIDIチャンネルを設定します。

note キーボード・セクション(通常、高音アップパー側)のMIDIチャンネルは、“MIDI Channel”で設定します。

本機は、キーボード・セクション(通常、高音アップパー側)、アンサンブル・セクション(通常、低音ロワー側)において、別々のMIDIチャンネルを設定し、外部MIDI機器を本体と同時に演奏したり、外部MIDIシーケンサーなどと接続してマルチ・ティンバー音源として使用したりすることもできます(6ページの「MIDIチャンネル・モードの設定(MIDI Ch Mode)」参照)。

1 SYSTEMボタンを押します。

SYSTEMボタンが点滅して、キーボード・セクションのディスプレイの上段に“SYSTEM”が表示されます。

2 VARIATIONノブでディスプレイ中段のパラメーターに“MIDI Ch (Lower)”を選択します。

3 キーボード・セクションのLEVELノブでチャンネルを設定します。

4 設定が終わったらSYSTEMボタン、またはEXITボタンを押します。

SYSTEMボタンが消灯します。

外部MIDIシーケンサーやコンピューター接続時のMIDIのローカル設定

外部MIDIシーケンサーやコンピューターなどと接続する場合、外部MIDIシーケンサーやコンピューターのエコー・バックがオンで、本機のローカル・コントロールがオンの状態になっていると、本機の鍵盤を弾いたときに演奏データが外部MIDIシーケンサーに送信され、これらのエコー・バックで本機の音源が発音することになります。このように鍵盤を弾くことによる発音とエコー・バックによる発音とで二重に発音するのを防ぐために、本機のシステム設定のローカル・コントロール(SYSTEM - Local Control)をオフにします。

本機のMIDIのローカル・コントロール設定をする

1 SYSTEMボタンを押します。

SYSTEMボタンが点滅して、キーボード・セクションのディスプレイの上段に“SYSTEM”が表示されます。

2 VARIATIONノブでディスプレイ中段のパラメーターに“Local Control”を選択します。

3 キーボード・セクションのLEVELノブで“Off”(オフ)に設定します。

4 設定が終わったらSYSTEMボタン、またはEXITボタンを押します。

SYSTEMボタンが消灯します。

トランスポーズとベロシティ・カーブのMIDIへの適用

本機のシステム設定のコンバート・ポジション (SYSTEM-Convert Position) パラメーターでトランスポーズ、ベロシティ・カーブを適用する位置を設定します。この設定は、MIDIの送受信データに影響を与えますが、本体の鍵盤で本体の音源を演奏するときには影響しません。

初期設定は“Pre-MIDI”に設定されています。

Pre-MIDI:

鍵盤からの出力直後のデータにトランスポーズ、ベロシティ・カーブをかけます。

- ・ 鍵盤からのデータにベロシティ・カーブ、トランスポーズ設定をかけたデータが、MIDI OUTから送信されます。MIDI OUTのデータが影響を受けます。
- ・ MIDI INから受信したMIDIデータは、そのまま音源へ送られます。

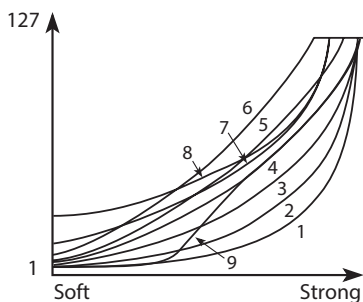
Post-MIDI:

音源へ入る直前のデータにトランスポーズ、ベロシティ・カーブをかけます。

- ・ 鍵盤からのデータは、そのままMIDI OUTから送信されます。MIDI OUTのデータは影響を受けません。
- ・ MIDI INから受信したMIDIデータにベロシティ・カーブ、トランスポーズ設定をかけたデータが、音源へ送られます。

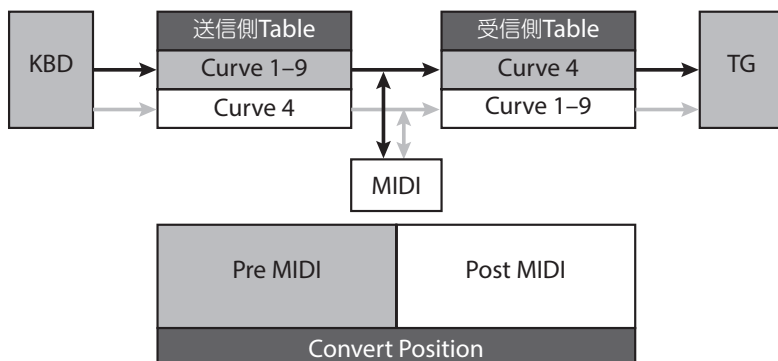
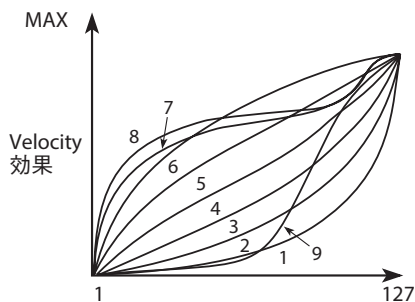
Pre MIDIのとき

Velocity (KBD→MIDI Out)



Post MIDIのとき

Velocity (MIDI In→TG)



本機が送受信するMIDIメッセージ

[...]は16進表記

MIDIチャンネル

グローバルMIDIチャンネル

MIDIチャンネルには1 ～ 16のチャンネルがあります。

送信機器と受信機器のMIDIチャンネルを合わせることで、それらの機器同士でMIDIメッセージをやりとりすることができます。

キーボード・セクションとアンサンブル・セクションのプログラムは、初期設定ではどちらも同じMIDIチャンネルで送受信します。

このMIDIチャンネルが本機のMIDI送受信の基準となるチャンネルです。

ロワー MIDIチャンネル

アンサンブル・セクションのプログラムは低音側（ロワー）で、ロワー MIDIチャンネルとして送受信するように設定できます。設定方法は6ページの「接続後のMIDI機器に関する各設定」をご覧ください。

MIDIチャンネル・モード

6ページの「MIDIチャンネル・モードの設定(MIDI Ch Mode)」を参照してください。

MIDIメッセージ

発音や消音、音色の切り替え、音色のコントロールなどさまざまな目的に応じて送受信されるのがMIDIメッセージです。

本機が扱うおもなMIDIメッセージを以下に紹介します。

チャンネル・メッセージ

発音/消音

発音/消音をするには、ノート・オンと、ノート・オフを使用します。

本機は、鍵盤を押さえるとノート・オンを、また鍵盤から手を離すとノート・オフをそれぞれ送信します。また、これらのメッセージを受信すると、ノート・ナンバーとベロシティの値に応じて本機の音源が発音/消音します。

ノート・オン[9n, kk, vv]

ノート・オフ[8n, kk, vv]

n: チャンネル、kk: ノート・ナンバー、vv: ベロシティ

ノート・オン、ノート・オフはMIDI Ch Modeの設定により送受信チャンネルが変わります。6ページの「MIDIチャンネル・モードの設定(MIDI Ch Mode)」を参照してください。

Note: ノート・オフ時のベロシティを送受信する機種は限られますが、本機は送受信します。

フェイバリットの切り替え

本機のフェイバリットは、プログラム・チェンジで切り替えます。

プログラム・チェンジ[Cn, pp]

(n: チャンネル、pp: プログラム・ナンバーで64音色まで選択)

本機のフェイバリット000～063は、プログラム・チェンジ[Cn, 00]～[Cn, 3F]に対応します。

MIDI Ch Modeの設定にかかわらずMIDI Channel(グローバルMIDIチャンネル)で送受信します。

フェイバリットの切り替え

本機でフェイバリットを切り替えると、そのフェイバリット・ナンバーに対応するプログラム・チェンジを送信します。また本機がそれらを受信すると、対応するナンバーのフェイバリットに切り替わります。

サウンドのコントロール

ピッチ・ベンド

本機のピッチ・ベンド・ホイールを操作すると、ピッチ・ベンド効果がかかり同時にピッチ・ベンド・チェンジを送信します。受信すると、ピッチ・ベンド効果がかかります。

ピッチ・ベンドのかかる範囲はプログラム毎に最適に設定されています。

ピッチ・ベンド・チェンジ[En, bb, mm]

(n: チャンネル、bb: 下位の値、mm: 上位の値)

上位の値	下位の値	Pitch Bend値	実際のピッチ (ベンド・レンジの値=+2)
127	127	8191	+2
64	00	0	0
00	00	-8192	-2

コントロール・チェンジ

音量や音色などをコントロールするには、コントロール・チェンジを使用します。本機は、モジュレーション・ホイールの操作や、フット・コントローラーの操作などによって、コントロール・チェンジを送信します。また、コントロール・チェンジを受信すると、そのコントロール・チェンジ・ナンバーに割り当てられているさまざまな効果がかかります。

コントロール・チェンジ[Bn, cc, vv]

(n: チャンネル、cc: コントロール・チェンジ・ナンバー、vv: 値)

ピッチ・ベンド・チェンジ、コントロール・チェンジは、MIDI Ch Modeの設定により送受信チャンネルが変わります (6ページの「MIDIチャンネル・モードの設定 (MIDI Ch Mode)」参照)。

・MIDI Ch ModeがU/L Individualのとき

Tip: 各セクションのEDIT - Damper Off/Onで、CC#64(ダンパー・ペダル)の送受信のオフ、オンが設定可能です。同様に、EDIT - Other Controls Off/Onで、ピッチ・ベンド、CC#1(モジュレーション・ホイール)、フット・スイッチ/ペダルで設定したコントロール・チェンジの送受信のオフ、オンが設定可能です。

Note: CC#80(SW1モジュレーション)、CC#81(SW2モジュレーション)は、レイヤーまたはスプリット設定のとき、グローバルMIDIチャンネルのみで送受信し、キーボード・セクションに対してのみ有効です。

本機のコントロール・チェンジの使い方

コントロール・チェンジにはCC#0～CC#127の128種類が用意され、各ナンバーがもつ効果や機能はMIDI規格で定められています。

音のコントロール	CC#0～95とCC#102～119
値や機能の操作	CC#96～101
音源操作や初期化	CC#120～127

本機には、音のコントロール(CC#0～95とCC#102～119)を使用してサウンドを変化させることができます。

よく利用されるコントロール・チェンジ

本機が対応するコントロール・チェンジのうち、代表的なものを紹介します。

Note: ここで紹介する機能は、工場出荷時のものです。

モジュレーション・ホイール操作でモジュレーションをかける

CC#01: モジュレーション・デプス [Bn, 01, vv]

(標準: モジュレーション・ホイール)

ビブラート効果などをコントロールします。

本機のモジュレーション・ホイールを操作すると、モジュレーション・デプスを送信します。

ホイールを下げきった位置で“0”を送信します。

受信すると、本機のモジュレーション・ホイール操作時と同様な効果がかかります。

音量のコントロール

CC#11: エクスプレッション [Bn, 0B, vv]

プログラムの音量を調節します。キーボード・セクションおよびアンサンブル・セクションの出力段の音量をコントロールします。

Note: CX-3タイプのオルガン・プログラムでは、ロータリー・スピーカー入力前段の音量をコントロールします。ドローバー方式のオルガンのエクスプレッション・ペダルの効果を再現します。また、VOXオルガン、エレクトリック・オルガン・プログラムでも、同様にオルガンのエクスプレッション・ペダルの効果を再現します。

Note: 一部のプログラムで例外的な動作をします。プログラム・ネームに“Pedal Wah”を含むプログラムでは、プログラム内のペダル・ワウ・エフェクトをコントロールして、音量をコントロールは行いません。

システム設定の“Foot - Pedal”の機能に、“Expression (CC#11)”を設定し、ペダルを操作するとエクスプレッションを送信し、音量が変わります。受信すると、ペダル操作時と同様な効果がかかります。

CC#07: ボリューム [Bn, 07, vv]

プログラムの音量を調節します。キーボード・セクションおよびアンサンブル・セクションの出力段の音量をコントロールします。

システム設定の“Foot - Pedal”の機能に、“Volume (CC#07)”を設定し、ペダルを操作するとボリュームを送信し、音量が変わります。受信すると、ペダル操作時と同様な効果がかかります。

Note: プログラムの音量は、LEVELノブの値、ボリューム・メッセージ値とエクスプレッション・メッセージ値を掛け合わせて設定されます。

Note: ユニバーサル・システム・エクスクルーシブのマスター・ボリュームを用いると、リバーブ/ディレイ・セクションおよびイコライザーの出力を含む、全ての出力の音量をコントロールします(16 ページ「マスター・ボリューム」参照)。

パンポット(ステレオ定位)のコントロール

CC#10: パンポット [Bn, 0A, vv]

音の定位をコントロールします。キーボード・セクションおよびアンサンブル・セクションの出力段のパンポットをコントロールします。

システム設定の“Foot - Pedal”の機能に“CC#10”を設定し、ペダルを操作するとパンポットを送信し、音の定位が変わります。

受信すると、“0” ~ “64” ~ “127”の値に応じて実際の定位が、左~中央~右になります。

各種コントローラーでのコントロール

ここでは、各種コントローラーの代表的な使用方法で説明しています。

システム設定の“Foot - Pedal”および“Switch”では、“MIDI CC#00” ~ “MIDI CC#119”を選択できます。

CC#64: ダンパー・ペダル [Bn, 40, vv]

(標準: DAMPER端子)

DAMPER端子に接続したダンパー・ペダル (付属DS-1H) を操作すると送信し、ダンパー効果のオン/オフが切り替わります。

DS-1Hの場合、ハーフ・ダンパー効果がかかります。受信すると、ダンパー・ペダル操作時と同様な効果がかかります。

CC#80: SW1 モジュレーション [Bn, 50, vv]

CC#81: SW2 モジュレーション [Bn, 51, vv]

(標準: SW1ボタン、SW2ボタン)

SW1ボタン、SW2ボタンを操作すると、オン時vv=127[7F]、オフ時vv=0[00]を送信し、プログラム毎に設定された効果のオン/オフが切り替わります。受信すると、SW1ボタン、SW2ボタン操作時と同様な効果がかかります (vvが63[3F] 以下のときオフ、64[40]以上のときオンになります)。

CC#66: ソステヌート [Bn, 42, vv]

システム設定の“Foot - Switch”の機能に上記CC#を設定して、本機で操作すると、オン時vv=127[7F]、オフ時vv=0[00]を送信し、ソステヌート効果のオン/オフが切り替わります。受信すると、フット・スイッチ操作時と同様な効果がかかります（vvが63[3F] 以下のときオフ、64[40]以上のときオンになります）。

CC#67: ソフト・ペダル [Bn, 43, vv]

システム設定の“Foot - Switch”の機能に上記CC#を設定して、本機で操作するとオン時vv=127[7F]、オフ時vv=0[00]を送信し、ソフト・ペダル効果がかかります。受信すると、フット・スイッチ操作時と同様な効果がかかります（vvが63[3F] 以下のときオフ、64[40]以上のときオンになります）。

音源操作や初期化

音源を初期化するための特殊な制御をするメッセージがあります。これらは、受信のみ対応し、送信することはできません。

CC#123: オール・ノート・オフ [Bn, 7B, vv]

CC#120: オール・サウンド・オフ [Bn, 78, vv]

オール・ノート・オフを受信すると、そのチャンネルで発音中の音がすべてオフになります。鍵盤を離れたのと同様の処理で消音するため、音の余韻が残ります。

オール・サウンド・オフを受信すると、そのチャンネルで発音中のノートがすべてオフになります。オール・ノート・オフと違い、強制的にすべての発音処理を停止するため、音の余韻は残りません。

これらの消音メッセージは、緊急のときに使用するためのものです。演奏中に使用するものではありません。

CC#121: リセット・オール・コントローラー [Bn, 79, vv]

受信すると、そのチャンネルで動作中のすべてのコントローラーの値がリセットされます。

システム・リアルタイム・メッセージ

アクティブセンシング [FE]

演奏中に送信側の機器が電源オフされたり、MIDIケーブルが抜けたり、断線したりしてトラブルが起こるのを防ぐためのMIDIメッセージです。アクティブセンシングを受信してから約300msec以上経っても次のメッセージが来ない場合は、MIDIケーブルにトラブルが起きたと判断して、MIDIで発音していた音を消し、コントローラーの値をリセットします。

システム・エクスクルーシブ・メッセージ

MIDIには、演奏情報を扱うチャンネル・メッセージの他に、MIDI機器間で情報や制御コマンド、設定を送受信するためのメッセージが用意されています。これらを「システム・メッセージ」といいます。

このうち、メーカー独自の機能拡張が可能なMIDIメッセージが「システム・エクスクルーシブ・メッセージ」です。Grandstageは、システム・エクスクルーシブ・メッセージの送受信に対応していません。

ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ・メッセージ (ノン・リアルタイム)

システム・エクスクルーシブ・メッセージのなかには、公的に使用法が統一されているものもあり、これを「ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ・メッセージ」といいます。

本機では、ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ・メッセージのうち、次の5つに対応しています。

- ・ **インクワイアリー・メッセージ・リクエスト**

[F0, 7E, nn, 06, 01, F7]

3rd byte nn : Channel

= 0 - F : Global Channel

= 7F : Any Channel

- ・ **インクワイアリー・メッセージ**

[F0, 7E, 0g, 06, 02, (9バイト), F7]

インクワイアリー・メッセージ・リクエストを受信すると、「私はコルグのGrandstageで、システムのバージョンは・・・です」という内容のインクワイアリー・メッセージを送信します。

[F0, 7E, 0g, 06, 02, 42, 48, 01, mm, 00, vv, ww, xx, 00, F7]

3rd byte g : Global Channel

6th byte 42 : KORG ID

7th byte 48 : Grandstage series LSB ID

8th byte 01 : Grandstage series MSB ID

9th byte mm :

Grandstage-88 member code mm = 17

Grandstage-73 member code mm = 0E

11th byte vv : System Version 1st (1 -)

12th byte ww : System Version 2nd (0 -)

13th byte xx : System Version 3rd (0 -)

(i.e. Version 1.0.2: vv=01, ww=00, xx=02)

ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ・メッセージ (リアルタイム)

- ・ **マスター・ボリューム**

[F0, 7F, 0g, 04, 01, vv, mm, F7]

(3rd byte g : Global Channel, vv: 値の低位, mm: 値の高位、両方合わせて16384段階)

システム設定の“Foot - Pedal”の機能に、“Master Volume”を設定し、ペダルを操作すると送信し、出力最終段の音量が変わります。受信すると、ペダル操作時と同様な効果がかけられます。

- ・ **マスター・ファイン・チューニング**

[F0, 7F, nn, 04, 03, vv, mm, F7]

(値が8192 [mm, vv =40, 00]のときはセンター、4096 [mm, vv=20, 00]のときは-50セント、12288 [mm, vv =60, 00]のときは+50セントになります。)

受信するとSYSTEM設定“Master Tune”が設定されます。

3rd byte nn : Channel

= 0 - F : Global Channel

= 7F : Any Channel

- ・ **マスター・コース・チューニング**

[F0, 7F, nn, 04, 04, vv, mm, F7]

(通常は上位mmしか使用しません。値が8192 [mm, vv =40, 00]のときはセンター、6656 [mm, vv =34, 00]のとき-12半音、9728 [mm, vv =4C, 00]のときは+12半音になります。)

受信すると“Transpose”が設定されます。

3rd byte nn : Channel

= 0 - F : Global Channel

= 7F : Any Channel

コントロール・チェンジ送受信時の本機の動作

コントロール・チェンジ受信時の本機動作、またコントロール・チェンジに対応する本機コントローラーの操作および設定の関係を以下に示します。

Note: 送受信は同じMIDIチャンネルで行います。2台のGrandstageを使って、これらのパラメーターを送受信するときは、送信側と受信側のプログラムを同じ設定にしてください。

システム設定の“Foot - Pedal”や“Switch”ではコントロール・チェンジ・ナンバー “MIDI CC#00” ～ “MIDI CC#119” のいずれかをアサインすることができます。Pedalでの送信値はすべて0～127、Switchでの送信値はすべて0(Off)、127(On)になります。

CC#	コントロール	バリュー	機能	
0	バンク・セレクト(MSB)	0...127	-	
1	モジュレーション・ホイール	0...127	モジュレーション・ホイールの操作に相当	
2	プレス・コントローラー	0...127	-	
3	-	-	-	
4	フット・コントローラー	0...127	-	
5	ポルタメント・タイム	0...127	-	
6	データ・エントリー (MSB)	0...127	-	
7	ボリューム	0...127	音量(キーボード・セクションおよびアンサンブル・セクション出力段)	*1
8	バランス	0...127	-	
9	-	-	-	
10	パンポット	0...127	パン(キーボード・セクションおよびアンサンブル・セクション出力段)	
11	エクスプレッション	0...127	音量(キーボード・セクションおよびアンサンブル・セクション出力段)	*1
12	エフェクト・コントロール1	0...127	-	
13	エフェクト・コントロール2	0...127	-	
14...15	-	-	-	
16	ジェネラル・パーパス・コントローラー 1	0...127	-	
17	ジェネラル・パーパス・コントローラー 2	0...127	-	
18	ジェネラル・パーパス・コントローラー 3	0...127	-	
19	ジェネラル・パーパス・コントローラー 4	0...127	-	
20...31	-	-	-	
32	バンク・セレクト(LSB)	0...127	-	
33...37	-	-	-	
38	データ・エントリー (LSB)	0...127	-	
39...63	-	-	-	
64	ダンパー	0...127	ダンパー効果	
65	ポルタメントOn/Off	0...63(Off), 64...127(On)	-	
66	ソステヌートOn/Off	0...63(Off), 64...127(On)	ソステヌート効果のオン／オフ	
67	ソフト	0...127	ソフト・ペダル効果	
68...69	-	-	-	

70...79	サウンド・コントローラー 1 ... 10	0...127	-	
80	コントローラー (CC#80)	0...63(Off), 64...127(On)	SW1のオン、オフ操作に相当	
81	コントローラー (CC#81)	0...63(Off), 64...127(On)	SW2のオン、オフ操作に相当	
82...90	-	-	-	
91	-	-	-	
92	-	-	-	
93	-	-	-	
94	-	-	-	
95	-	-	-	
96	データ・インクリメント	-	-	
97	データ・デクリメント	-	-	
98	NRPN(LSB)	-	-	
99	NRPN(MSB)	-	-	
100	RPN(LSB)	-	-	
		-	-	
		-	-	
101	RPN(MSB)	-	-	
102...119	-	-	-	

*1: 本機のMIDIチャンネル・メッセージによる音量コントロールは、ボリューム(CC#07)とエクスプレッション(CC#11)をかけあわせたものです。

故障とお思いになる前に

動作がおかしいと思ったときは、以下の項目を確認してください。

外部MIDI機器とのMIDI送受信が正しく応答しない

- ☐ MIDIケーブルは正しく接続されていますか？
- ☐ USB-MIDI接続の場合、USBケーブルがUSB B端子に正しく接続されていますか？
- ☐ 外部MIDI機器と同じチャンネルで、MIDIデータを送受信していますか？
- ☐ 本機が対応しているMIDIメッセージを送受信しようとしていますか？

MIDIプログラム・チェンジ・メッセージの反応が正しくない

- ☐ 本機ではフェイバリットの選択が、MIDIプログラム・チェンジ・メッセージに対応しています。KEYBOARDSセクション、ENSEMBLEセクションの音色プログラムの選択は、MIDIプログラム・チェンジ・メッセージには反応しません。

音が二重に発音する

- ☐ ローカル設定がオフになっていますか？
→ “Local Control” をOffにしてください。(7 ページ参照)

※ 仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

* すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時	1—16	1—16	記憶される
	設定可能	1—16	1—16	
モード	電源ON時	3	3	
	メッセージ 代用	× *****	×	
ノート ナンバー	音域	16—112 / 9—120 *****	0—127 0—127	16—112(Grandstage 73) / 9—120(Grandstage 88) 全音域を発音できない音色あり
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9n, V=1—127 ○ 8n, V=1—64	○ 9n, V=1—127 ○ 8n, V=0—127	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド		○	○	
コントロール チェンジ	1	○	○	モジュレーション
	7	○	○	ボリューム *1
	10	×	○	パン
	11	○	○	エクスプレッション *1, *3
	64	○	○	ダンパー
	66	×	○	ソステヌート *2
	67	○	○	ソフト *2
	80, 81	○	○	SW1、SW2
	0—95, 102—119	○	×	Foot Switch または Foot Pedal で割り当てた場合に送信
	120, 121	×	○	オール・サウンド・オフ、リセット・オール・コントローラー
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0—63 *****	○ 0—63 0—63	フェイバリットの切り替えに対応
エクスクルーシブ		○	○	*4
コモン	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアル タイム	クロック コマンド	×	×	
その他	ローカル・オン / オフ	×	○	
	オール・ノート・オフ	×	○ 123—127	
	アクティブ・センシング	○	○	
	リセット	×	×	
備考 *1: SYSTEMエディットでFoot Pedalの機能に割り当てた場合にFoot Pedalの操作により送信。 *2: SYSTEMエディットでFoot Switchの機能に割り当てた場合にFoot Switchの操作により送信。 *3: Pedal Wahプログラムに対してはワウ効果をコントロール。 *4: ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ・メッセージのデバイス・インクワイアリー、マスター・ボリューム、 マスター・ファインチューン、マスター・コースチューンに対応。				

モード1: オムニ・オン、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ

○: あり

モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード4: オムニ・オフ、モノ

×: なし

※ MIDIインプリメンテーションの配布については、コルグ・ウェブサイトをご確認ください。

